

私立大学図書館協会国際協力委員会2005年度海外集合研修概要報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学図書館紀要編集委員会 公開日: 2012-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 仲山, 加奈子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/13428

Japan Association of Private University Libraries

Overseas training program 2005

私立大学図書館協会国際協力委員会 2005年度海外集合研修概要報告

仲山 加奈子*

1 はじめに

1.1 当稿執筆の目的

2005年度の私図協海外集合研修に参加させていただいた。主な行き先はイリノイ大学図書館でたった3日半の期間であったが、そこで見聞きしてきたことは私個人にとっては大変新しく、驚いたことが大小含めてあまりに多かったという印象を持っている。ゆえにこういった体験のすばらしさを一人でも多くの方に知ってほしいと力が入ってしまうのだが、一度の機会・1本の原稿でそれを伝えきるには情けなくも現在の私には文才が足りない。今後与えられる各機会ごとに最適な内容でご報告していきたいと思うのだが、まずこの「図書の譜」では、私と同じく図書館の現場で作業にあたる方々が主な読者であると想定し、一人でも多くの方にこの研修について知っていただき、参加を考えてもらうことを目的に書き進めたい。

現地では主に、イリノイ大学図書館での具体的な図書館業務のやり方をうかがうことができたが、その詳細については私立大学図書館協会国際協

*なかやま・かなこ／図書館事務部整理課

力委員会¹へ提出済みの報告書(参加者による分担執筆形式)をご参照いただくとして、ここでは今回の研修にどんな経緯で参加し、事前に何をし、現地ではどこで誰と会い、何があったか等々について書き、私の体験をご想像いただければと思う。

1.2 選考・事前準備

私がこの海外集合研修について知ったのは、前々年度の同研修に同じ課内の先輩²が参加されたという話をうかがったからである。図書館情報学を学んでいた学部生時代でさえ、よく目にするものは米国の図書館情報学関係の翻訳論文であったし、何かにつけて「米国図書館界では・・・」といった説明を多くされてきた記憶があり、単純にも米国の図書館は進んでいるという印象を植え付けられていた。自分が図書館で仕事をはじめみると、規則や前例で決まっていることが伝統的にそのまま続けられており、その背景や理由の追求(それによって生まれる改善を含む)が飽きられているように感じられたし、また外注業者との共同作業をしていく体制をとりながら、外注業者以上の価値を出し切れない組織であることも問題のように感じられた。こういった問題には、当事者によって各所にあった解決方法が模索されることが必要であるが、背景は違いながらも独自の考えで拡大、生存してきた米国図書館界の様子を知ることは、現実の混沌にいる気分を晴らし、何か新しいことをしようとする動機を与えてくれる。そういった期待があったし、実際にもそういう気持ちを持つことができた。本当に単純な動機ではあったが、参加を申し出ることにした。

そう頻繁に同じ大学からの参加は許されないだろうと、ほぼあきらめつつも申込書に事務的な内容と参加の動機をひとこと記入し提出した。すると、派遣元の私立大学図書館協会国際協力委員会から面接の通知があった。面接は通常の委員会(委員5~6名)に同席するような形で行われ、1人10分から15分。全て日本語による面接で質問された内容は応募の理

¹<http://www.jaspul.org/kokusai-cilc/index.html> (以降脚注に示した全ての URL は、2006年1月9日現在のもの)

²図書館事務部整理課 伊藤朋子氏。図書館の譜第8号(2004年3月)p.100に研修報告をされている。

由のみで、委員からは研修の成果をくれぐれも還元する努力をしてほしいという点を強調され、和やかな中に終了した。後から聞いた話であるが、2005年度の場合応募者数=参加者数であり、応募数が非常に少ないのが現状のようである。

参加が決定した5名の所属館は日本各地に渡り、関西2名(同志社大学、関西学院大学)、北陸1名(国際大学)、関東2名(駒澤大学、明治大学)で全員の経験、関心分野、年齢、特技、英語力ともによく分散していた。お互いを補完しあう関係が研修の成功には必要であると全員が考え、出国前に顔をあわせたのは1度だけであったが、その前にメール等で情報共有や事前準備に励んだ。

国際協力委員会から与えられた研修テーマは「アメリカの大学図書館の現状を知る」³という大きな設定であったため、実際にイリノイ大学図書館の方と話すことを思うとさらに具体的なテーマを設定する必要があった。そこで参加者各自の応募動機と質問したい事柄を基に、現地でのスムーズなコミュニケーションのために英語版の質問状を作成し⁴、参加者の自己紹介文書とあわせて訪問先に事前に送付した。過去の同研修プログラムは短い期間で多くの場所を見学する形式のものが多かったようであるが、参加者5名の関心は各自担当する図書館業務がイリノイ大学図書館ではどのように行われているか知りたいという点で一致していたため、プログラム中はほとんどをイリノイ大学図書館内で過ごさせていただけるよう、受け入れ先であるモートンソンセンター⁵に企画をお願いした。

頂いたプログラムでは我々参加者の質問状に回答できる現場司書(兼図書館情報学教員)の方々と60分から120分刻みのセッションがあり、また館長・副館長ともお話しする機会が与えられた。またイリノイ大学近郊にあり特徴的なサービスや施設で有名な私立大学図書館へのツアーや、モートンソンセンター主催のレセプションへの同席による人脈形成、移動や食

³2005年度海外集合研修の参加募集について http://www.jaspul.org/kokusai-cilc/shugo_boshu05.html

⁴2005.9.6付け“Theme and Questions”を最終頁に添付。

⁵Mortenson Center for International Library Programs: 寄付によってイリノイ大学図書館内に設立された図書館員の国際交流を目的とする機関。私図協と提携関係にある他、独自の研修プログラム(Mortenson Associates)を持ち、毎年世界各国の図書館関係者を受け入れている。(http://www.library.uiuc.edu/mortenson/index.html)

事・宿泊の気遣いに至るまで、3日半の滞在期間中一刻の無駄もない充実のスケジュールを組んでいただいた。この企画・調整力や、きめ細かな対応・現地でのホスピタリティーに大変感動した。

2 研修概要報告－イリノイ大学図書館

イリノイ大学は州内3箇所にキャンパスを持つ州立大学で、訪問したのはそのうちのシヤンペーン校 (University of Illinois at Urbana-Champaign) ⁷である。学生数約4万人、教員・職員・研究者は約1万人に対し、この地域の人口がおよそ10万人であることから相対的に規模が大きい事が分かる。



写真⁶：キャンパス内の紅葉

ひとつの町が主にひとつの大学でできている。図書館情報学の大学院もあり、広大なキャンパスには Main Library(中央館)と42の部門図書館が点在している。州都シカゴからは国内線で約1時間程度、緯度は北海道ほど北にあり、訪問した10月末は日本の11月末から12月程度の気候で滞在中は天候にも恵まれた。キャンパス内の緑がほとんど紅葉しており、資料を抱えて急ぎ足で移動する中にもその美しさは私達の目を楽ませてくれた。

以下がイリノイ大学図書館での研修全日程である。

- 10月24日(月曜日)

－ イリノイ大学図書館サービス功績者表彰式への出席

⁶本稿の写真は全て、同じ研修参加者の同志社大学鈴木昭子氏撮影によるもの。

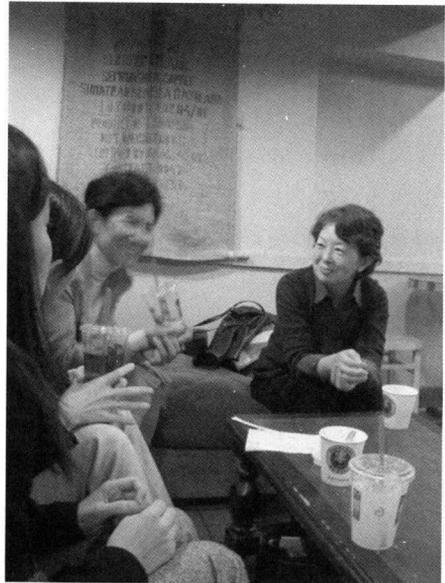
⁷<http://www.uiuc.edu/>

- Main Library(中央館) ツアー
 - アジア図書館、歴史・哲学・新聞図書館ツアー
 - モーテンソンセンター所長、スタッフとランチオンミーティング「モーテンソンセンターと今回の研修プログラムについて」
 - 副館長(サービス担当)とセッション「図書館サービスの評価について」
 - 館長とのセッション「図書館経営について」
- 10月25日(火曜日)
 - レファレンスライブラリー統括責任者とセッション「レファレンスサービスについて」
 - 副館長(蔵書担当)とセッション「テクニカルサービスについて」
 - 私立ウェズリアン大学図書館ツアー
 - モーテンソンセンター主催年次講演会の講演者を囲む夕食会
- 10月26日(水曜日)
 - 貸出返却サービス・書架統括責任者とセッション「貸出返却体制について」
 - 図書館情報学分野司書、図書館情報学大学院副学部長(学生担当)とセッション「司書の社会的評価・職業としての司書」
 - グレインジャー工業図書館ツアー
 - モーテンソンセンター主催年次講演会「コロンビアにおける民主化と図書館」
 - 講演会レセプション
- 10月27日(木曜日/午前のみ)
 - モーテンソンセンター所長とセッション「図書館のアドボカシー活動と米国図書館協会について」

－ レファレンスライブラリアン兼スタッフ研修コーディネーター
担当司書とセッション「スタッフ研修について」

研修前日の10月23日(日曜日)夜9時頃、飛行機が予定より数時間遅れて現地ローカル空港に到着したにも関わらず、モートンソンセンター所長とイリノイ大学図書館の日本人司書の方が自家用車で空港まで迎えに来てくださった。到着地の空港名称に大学名が掲げられている⁸ことから分かるが、イリノイ大学が所有し運営する空港のようである。ホテルまで車で30分程度の道を送り届けていただいた上、夕食用のお弁当まで持たせていただき、参加者5名とも恐縮しつつ翌朝からの研修に備えた。

到着時より研修終了まで毎日、イリノイ大学図書館司書(アジア図書館)の野口契子氏がほぼ全てのプログラムに同席され、英語面でのフォローや広いキャンパス内の道案内、食事や買い物の案内をしてくださった。米国の大学では司書は教員である場合が多く、野口氏も研究論文を書きつつ通常の図書館業務(レファレンス・資料収集、目録作業等ほぼ全ての分野)をこなしておられる。学内唯一の日本人ライブラリアンとしてご活躍で、一日の大半は会議等への参加で埋まってしまうほど超多忙な日々である。小柄ながらも動作は非常にてきぱきとされ、学内各所の外国人司書たちと信頼関係を築いておられる様は、コミュニケーションが一筋縄ではいかないことが容易に分かるだけに、大変な努力があるのだと思う。



写真：メンバーと談笑される野口氏

⁸University of Illinois Willard Airport <http://www.flycmi.com/>

研修初日に参加した図書館サービス功績者表彰式は、組合(Union)の古風で立派な建物の一室で行われていた。広い会場には円卓が並べられ、軽い朝食を取りながら図書館長が表彰者をひとりずつ紹介していくのに拍手を送っていくという形式であった。図書館スタッフ手作りのハロウィーン飾りがそこかしこに置かれ、暖かいパーティーといった雰囲気、プロフェッショナルライブラリアンではないスタッフ達を対象とした表彰式であったが、彼らの業務への貢献を館長が目に見える形で労う事が、図書館運営を支えるためには必要なのかと考えさせられた。

副館長、館長とのセッション前は緊張気味であったが、まずは副館長(サービス担当)⁹とお会いしてみるとその心配はなくなった。我々の質問状のうちサービスに関するものを全て事前に目を通していただき、質疑応答形式というよりざっくばらんに話は進み、お孫さんがおられることや、実はご自身の



写真：資料を示しながら説明される副館長

著書が日本語に訳されている¹⁰と和書の現物をお見せくださったり、終始笑顔のセッションとなった。副館長はもともとイリノイ大学スラブ図書館で長くキャリアを積まれた方であるが、図書館内のテクニカル部門とサービス部門の伝統的な「壁」を取り払うため現職に就かれているとのことだ。図書館サービスの評価に使用している調査パッケージ商品や分析結果書類の実物等を示しながらご説明くださり、図書館側が現在提供しているサービスは、利用者の期待を上回るものであるという分析結果が出ていたことには驚いた。

⁹イリノイ大学図書館には3名副館長がおりそれぞれ蔵書担当、サービス担当、IT担当という責任範囲をお持ちである。

¹⁰Robert Burger 著、松井幸子、内藤衛亮共訳「データベースの典拠作業：典拠レコードとファイルの作成・利用・維持管理および評価」東京：丸善、1987

引き続き、イリノイ大学図書館長室を訪問。業務の外注状況や、館長の主な仕事の一つである資金調達方法の実際についてうかがった。日本における整理業務外注のように、恒常的に外注業者に担当させている業務はないそうで、よく教育されたアシスタント(図書館情報学専攻の院生を含む)が作成する目録は



写真：館長と参加メンバー¹¹5名

その品質が信頼されており、イリノイ大学図書館の地理的な孤立性や、主に採用している目録規則(デューイ分類法を採用。LCC¹²を採用している大学の方が多数派)からも外注業者の必要性は低いようであった。資金調達方法は館長が各界の夕食会等に参加し、富裕層に図書館へ貢献することがいかに社会的評価につながるかを説明されるそうである。「食べることが仕事かもしれない」と笑いながらおっしゃっていたが、社交性が高く行動派で図書館への熱意が大きいからこそ、こういった地道なPR活動を推進していけるのだと感じた。最終的には寄付という経済的援助の形をとるが、より重要なことは、その過程で図書館の存在意義や価値の高さをトップ自らが各界に広く説いて回っているという事実である。図書館の最高責任者が担う仕事としてこれ以上重要なことはないのではないかという感想を持った。

見るべき点が多くあるということで、研修2日目にイリノイ大学から車で1時間ほどの場所にある私立ウェズリアン大学の図書館¹³へ訪問の予定

¹¹写真左から、同志社大学(社会学部・社会学研究科事務室)鈴木氏、駒澤大学(図書館情報サービス課)岡田氏、関西学院大学(図書館利用サービス課)魚住氏、国際大学(松下図書・情報センター)小島氏、筆者。

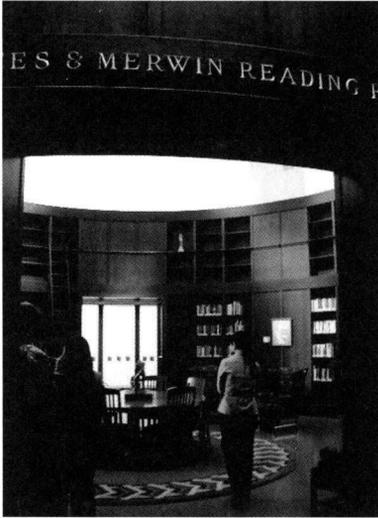
¹²Library of Congress Classification(米国議会図書館分類法)

¹³イリノイウェズリアン大学エイムス図書館(<http://www.iwu.edu/library/>)

を組んでいただいた。大学の構成員だけでなく一般市民もサービス対象とし巨大な蔵書を持つ州立イリノイ大学図書館とは対照的に、ここは生徒数2100人程度のこじんまりとした私立大学図書館で、学費も比較的高額である。きめ細やかな学生サービスを目指し、図書館も利用者の視点をかなり重要視した図書館運営を行っていた。例えば、

- 快適な空間を提供するためホテル並みに洗練された家具や内装(ロビーに設置されたソファやロッキングチェア)、コンピュータ環境
- 資料の媒体毎に配置場所を離さず、分類ごとに図書・雑誌・視聴覚資料等を混在配架
- 館内での飲食を許可(館外貸出した本は結局、食事等しながら閲覧利用されている。これをふまえると、運営的視点から資料保存を理由に図書館で飲食を禁じることの意味は小さく、利用者の図書館での快適性を優先した方がよいという考えに基づく)
- 新刊書は背表紙ではなくジャケットや表紙を見せて展示(背表紙よりも学生の興味を引くことができる。運営都合である書架スペース節約よりも、利用者にとって魅力的な設置を行う事を優先するという考えに基づく)

こう聞くと、維持・運営コストの増大による財政的な問題を想像しがちであるが、図書館が自主的に資金調達を行う文化があることも考えあわせると、図書館業務に対する基本的な考え方が「財政の許す範囲の業務・サービスを行う」(日本)というより「提供したいサービス実施に必要な業務を行う」(米国)という発想の違いを感じてしまう。資料保存のために半永続的に続いていかねばならない図書館において、どちらの考え方が継続に必要な力となるかは明白である。



写真：美しく洗練されたデザインの開架書架



写真：媒体混載の書架



写真：軽食自販機と書架



写真：一般書も表紙を見せて配架

研修4日目、モーテンソンセンター所長より ALA(米国図書館協会) による“@your library”¹⁴というキャンペーンについて紹介があった。その趣旨は、昨今ではその意義さえ問われている図書館界全体が、世の中に対してその必要性をアピールして行く際の戦略やツール等を提供しようとするものである。現地地で会った司書の中に、“ALA は図書館的というよりむしろ

¹⁴@your library キャンペーン：http://www.ala.org/ala/advocacybucket/spring_2005.ppt

企業のような組織だ”と言う人がいた。そこには非営利団体に所属する者が抱きがちな営利企業との隔離・分離意識のようなものが感じられ、ALAの米国図書館界における求心力が実際のところどれくらいあるのか気になった。とはいえ、このキャンペーンの資料¹⁵を細かく見ていくと、利用者のセグメント化とそれ毎に対応したアピール方法の例示や、図書館が行った情報リテラシー教育の成功例を参照・投稿する仕組み等マーケティングツールが豊富で、図書館内でマーケティング分野の専門家や部署を設けることはあまり馴染まない現状をうまくカバーしている点に感心した。

3 おわりに

主な方々とのセッション(イリノイ大学図書館長、副図書館長、ウェズリアン大学図書館次期館長、モーテンソンセンター所長)について触れてきたが、「2 研修概要報告-イリノイ大学図書館」の前半に記載した全日程の通り、その他にも様々な方にお話をうかがっている。オペレーションレベルの話題が多いが、興味がおありの場合は筆者に気軽にご連絡いただきたいと思うし、今後の機会を利用して紹介もしていきたいと思う。過去にこの研修に参加した方やモーテンソンセンターの研修を受けた方による報告書¹⁶も参考にしていきたい。

渡米前に抱いていた「米国の図書館は進んでいる」という考えは、自分の中で多少訂正された。書架から溢れ床に乱雑に置かれた蔵書、若者が職場に少なく近い将来やってくる人材不足、同じ学内図書館でも館によって施設の格差の大きい状態の放置、典型的な会話ベタ図書館員の存在...、短い研修期間中にも問題は散見された。しかし、違う国の人間がその国特有

¹⁵ 図書館による情報リテラシー教育に有効な施策例集(“A Library Advocate’s Guide to Building Information Literate Communities”) <http://www.ala.org/ala/advocacybucket/information-literacy.pdf>

¹⁶ ■ 2003 年度私図協海外集合研修 (訪問地: 米国カリフォルニア) 報告書: http://www.jaspul.org/kokusai-cilc/shugo_report2003.html ■ 2004 年度私図協海外集合研修 (訪問地: モーテンソンセンター) 報告書: http://www.jaspul.org/kokusai-cilc/shugo_report2004.html ■ 2003 年度モーテンソンセンター・アソシエイツプログラム参加報告について: 鷹尾道代, アメリカにおける大学図書館員の専門性について イリノイ大学モーテンソン・センター国際図書館プログラムに参加して, 大学図書館研究, No.71, 2004, p.17-32 ■ 2004 年度モーテンソンセンター・アソシエイツプログラム参加報告について: http://www.jaspul.org/kokusai-cilc/haken_report2004.html

の状況に合わせて作り上げた図書館には、どちらが進んでいるとか遅れているとかではなく、自国の図書館にとって新しいアイデアが満載である、という当たり前の意味であった。

移動のために機内エコノミークラスで過ごす時間は長く、敷地が広い米国大学のキャンパス内の移動は体力を消耗する。英会話も恥をかきながらようやく慣れてきた頃には帰国のタイミングがやってくるし、3日半詰め込むだけで吐き出すことのない研修日程には、消化不良感を強く抱きながらの滞在となる。

しかし「はるばる日本から来た司書の皆さんで

す」と様々な場面で紹介され、全ての方が忙しい最中に笑顔で親切に接して下さり、業務で積み上げてきた成果を惜しげもなく、しかも質問に的確に答えてくださる。そんな環境で過ごすうち、いい意味で心理的に巻き込まれ、自分がまるでそのすばらし(く見えるだけかもしれないが)い図書館の一員になったかのような気分の良さを味わうことがあった。彼らは役職者だけでなくスタッフたちもオープンで交流意識が高く、自分たちの図書館や仕事に誇りを持っていて、それは場を訪れ接するうちに伝染してくる。単純であるが、そんな気分的高揚の記憶が日々の繰り返し業務の推進を後押ししてくれる。

また、図書館界の良い所だと思うが他業種に比較して図書館は国をまたがっても業務内容が酷似している。違う国で自分と同じことを職業にしている人がいることは、共通の言語と意思さえあれば、どこでも通じ合う話題があるし協力し・助けてくれる人が世界中にいるということだ。その広



写真：モーテンソンセンター受付にてメンバーからのプレゼントの1つである招き猫と。前：同センター所長バーバラ・フォード氏、後：研修コーディネーターのドーン・キャサディー氏

がりを実感できたこともまた大きな収穫であった。

費用負担がなく目下は参加のための経験・能力的条件もなく、応募者数も少ない。担当業務を離れる時間もお盆やお正月休みと同じ程度。新しい人と知り合うこと、慣れない英語を使うことに踏み出しさえすれば、あとは自分の意思ひとつで得がたい経験とすばらしい1週間を送ることができる。2005年度海外集合研修の参加募集は7月1日～22日¹⁷であった。仕事だけでなく個人としての研究分野も持った好奇心旺盛な図書館員は多い。とりあえず外国へ行くのが楽しいと思える向きには、7月の応募を強くお勧めしたい。

¹⁷応募先：私立大学図書館協会 国際図書館協力委員会 (<http://www.jaspul.org/kokusai-cilc/index.html>)

Theme and Questions

Theme	Theme details	Questions
Library services	Library services and operations, general	<ul style="list-style-type: none"> • What kinds of library services do you offer and how do your operations vary for different patrons such as faculty, students and community users ?
	Improvement/development of library services	<ul style="list-style-type: none"> • Do you make regular plans for the improvement of library services or facilities? • Do you have statistics (circulation or reference) that you use as quality measures or standards for the improvement of library services? If you have, we would like to see the guidelines and contents. • Are librarians/staff expected to do independent study to improve their knowledge/skills or are there any prepared training programs such as OJT? • How do you collaborate with your university's faculty and/or local communities to offer better library services ? • How do you evaluate the relationships between the central library and each department or branch library? How do you collaborate with them?
	Problems and solutions	<ul style="list-style-type: none"> • Do you have any problems/difficulties in providing library services? If so, please tell us the problems that you have faced and how you have handled those matters.
	Current situation of library services and the prospect	<ul style="list-style-type: none"> • We are interested in the current situation of library services especially Circulation (Library policy), Check-out(Course reserves), Reference (Online), Remote services (Reference, Established procedures). Also we would like to know your future plans to improve those services. (• Do you have any special services that you are working or new services that you are planning?)
Library management	Library management – general	<ul style="list-style-type: none"> • Regarding library management : How do you decide upon policies and take actions? <example : top – down, in meetings, someone takes initiative, case by case.>

	Outsourcing	<ul style="list-style-type: none"> • Are you an outsourced library? If so, we would like to know the current outsourcing situation. 1. Strength and weakness 2. Process of introducing outsourcing 3. What kinds of services/work do you outsource? <ul style="list-style-type: none"> • If you are not an outsourced library, please tell us the reason. • How do you view outsourcing in the future? • What are the problems with outsourcing and how do you handle these matters? • We would like to know the recent trends in academic libraries in the U.S.
Library instruction User Education	Instruction programs	<ul style="list-style-type: none"> • We would like to know the following points in terms of library instruction programs you offer. 1. What kind of instruction programs do you offer? 2. What are goals and objectives for your programs? 3. How often do you offer instructional sessions? 4. Contents of the sessions 5. Who is in charge of these sessions and how do you coordinate/develop human resources?
	Planning, organizing, and promoting instruction programs	<ul style="list-style-type: none"> • We would like librarians/staff who are responsible for library instruction to explain the following : 1. How do you collaborate with faculty? How do you make contact with them? 2. How do you manage and promote instruction activities? 3. What, do you think, can librarians do to contribute to information literacy education on campus?
Technical services	Collection development (Book selection)	<ul style="list-style-type: none"> • We would like to know your 'Collection Development Policy' especially about 'Book selection'. How do you collaborate with faculty of each department? Would you explain the procedure of 'Book selection'?

	Microform databases	As for microform databases that you subscribe to, can every microform be searched online? If not, what percentage of all microforms is not catalogued online? How do you deal with those microforms? Is it possible to search not only by the title of the set but also by individual titles within the set? Or do you handle with attached indexes of the microforms?
	Multilingual materials	<ul style="list-style-type: none"> • How many languages of materials have you acquired for your collections? • Do language specialists catalog those materials?
Librarians' social evaluation, Organization and culture	Facts and reasons for high social evaluation of librarians in the U.S	<p>Please explain the following to us :</p> <p>Facts :</p> <ul style="list-style-type: none"> • General career path to be a librarian • Librarian's status on campus including general career path on campus • Salary average comparing with other industries • Librarian's rank on popular occupations rankings • Publicity about librarians for students who are looking for a job or searching career. • Other facts or figures showing a high social evaluation or popularity of librarians. • If any, facts or figures showing a low social evaluation of librarians. <p>Reasons :</p> <ul style="list-style-type: none"> • Are there job-related things that librarians do outside their own job responsibilities? (such as independent studies and trainings) • Are there any librarians who have come from different fields into library science and are their skills or experiences useful for your library? • Relationship with outside • History of librarians' qualification system and current situation • Other things that make today's librarian's status in the U.S.

	<p>Organization and its culture</p>	<p>Please explain the following to us :</p> <ul style="list-style-type: none"> • Organization chart (including structure of division, the number of librarians/staff per job responsibility, age range) • Evaluation system, Remuneration level compared with the same fields/different fields. • Employment policies, training system, awareness of problems and future plans • How to achieve the mission of your library (such as how to convey it to each staff member and make them follow) • How and how often do you reflect upon the achievement of your mission? • List and contents of technical services such as Book selection, Material purchase, Catalog/Register, Meeting, General affairs along with organization chart • Problems with technical service processes • List and contents of public services along with organization chart • Problems with public services <p>Culture :</p> <ul style="list-style-type: none"> • What are the core skills or knowledge of your librarians? • What is your motivation for working? • Please describe the atmosphere of your office. • Average overtime work per month • Can you take 100% of your given vacations every year? • Which is stronger, cooperation with each other or competition with each other when you are working? • Which is the main job focus ; routine work or self directed work? • Any shared sense of values around employees? • Any messages from the president to the employees to manage your library?
--	-------------------------------------	---

	Expectations libraries face in the U.S and problems with librarians' skills/services	Please explain the following to us : <ul style="list-style-type: none">• Requests/expectations held by general public (including library users, government, industries and academic world and so on) in the U.S.• Problems with librarians' skills/services
--	--	--